

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 05020070

政策目標	2	めぐもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	7	高齢者支援の充実	事業優先度	B		
単位施策	2	生活支援の充実	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)		
事業名	除雪サービス事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	5 保健福祉課		
事業主体	雄武町社会福祉協議会		関係課	#N/A		
事業指標	除雪サービスの実施		関係課	#N/A		
事業目標	円滑な実施		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加 住民協働	有	社会福祉協議会から雄武ノースクリエート事業協同組合並びに各自治会等へ実施委託	関係例規・法令名	無		
			関係個別計画名	有 雄武町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画		

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 25 年度 事 業 内 容	平成 26 年度 事 業 内 容	平成 27 年度 事 業 内 容	平成 28 年度 事 業 内 容	平成 29 年度 事 業 内 容	
計 画 内 容		ひとり暮らしの高齢者等、冬期間の除雪労力が困難な世帯の緊急避難路確保を目的として、社会福祉協議会が実施する除排雪事業に対して補助を行う。	事業実施の補助を行う。	事業実施の補助を行う。	事業実施の補助を行う。	事業実施の補助を行う。	
	事業費(千円)	14,712	800	1,312	4,200	4,200	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	14,712	800	1,312	4,200	4,200		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	13,255	800	1,361	3,983	3,653	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	13,255	800	1,361	3,983	3,653		
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 除雪サービス事業補助金 (社会福祉協議会への事業補助) 上限額 800千円	(実施内容等) 除雪サービス事業補助金 (社会福祉協議会への事業補助) 実績に基づく補助	(実施内容等) 除雪サービス事業補助金 (社会福祉協議会への事業補助) 実績に基づく補助	(実施内容等) 除雪サービス事業補助金 (社会福祉協議会への事業補助) 実績に基づく補助	
		【評価・実績】					
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	円滑な実施	円滑な実施	円滑な実施	円滑な実施	円滑な実施
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	100%	104%	95%	87%	82%
	全体達成率	5%	15%	42%	67%	90%	
	備考欄						

事業名	除雪サービス事業	評価者 管理職 職氏名	保健福祉課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	社会福祉係	中西 厳太

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	除雪労力が困難な世帯	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	円滑な実施								
【抱える課題やニーズは】	人口の高齢化が進み、ひとり暮らしの高齢者の増加も予想され、ニーズが高まると考えられる。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	住み慣れた地域で安心して暮らせるように、冬期間の緊急避難路を確保する。	① 必要経費の補助	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>3,458千円</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>3,458千円</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	3,458千円	実績値	3,458千円	達成度	100.0%
目標年度	平成29年度										
目標値	3,458千円										
実績値	3,458千円										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	冬期間の緊急避難路が確保されることで高齢者の不安が解消され、地域で安心して暮らしていくことができる。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0!%</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	平成29年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	補助金の交付	雄武町社会福祉協議会へ除雪サービス事業に係る必要経費の補助金を交付した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	ひとり暮らしの高齢者等、冬期間の除雪労力に乏しい世帯の緊急避難路確保策として、除雪サービスはニーズが高く、事業展開するうえで支援の必要性は高い。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	緊急避難路の確保を必要とする世帯の生活維持を図るべく、事業主体へ支援することは有効である。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	社会福祉協議会は必要最小限の路線のみ除雪サービスを展開していることから適当と判断している。また、自治会等の関係機関と協議を実施し、支援を進めることが出来た。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

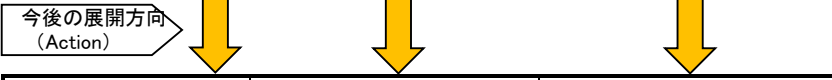
公平	判断の理由	除雪サービスを必要とする世帯に対し実施しているので公平と判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
除雪労力の乏しい、ひとり暮らしの高齢者等にとって、緊急避難路の確保は生活維持の面からも必要性が高い事業である。適正な労務賃金で積算し、補助することで事業の継続実施を図ることができた。		



継続/現状維持		
生活路線確保という観点から、町の継続した支援は必要である。今後も制度設計について、事業主体との調整を行いながら進める必要がある。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
  - 終了  休止  廃止